

令和6年度業務実績

(ShoPro静岡刑務所・笠松刑務所)

～社会とつながり、未来をつなげる～

公共サービス改革法に基づき、法務省矯正局から刑務所の一部業務が民間企業に委託されている本事業ですが、通算3期目となる第3期事業がスタートしました。民間の創意工夫やノウハウを活用して公共サービスの質の向上を目指すという本事業の趣旨に基づき、静岡・笠松ともに新規職業訓練科目を導入し、再犯防止に向けて職業訓練と就労支援の連携を強化しています。令和7年6月に導入された拘禁刑に対応し、いずれ戻っていく社会とつながり、被収容者の未来をつなげるために、被収容者の特性や施設のニーズに合わせた企画を提案・運営しています。

第1期 平成22年度～28年度

教育

分類



第2期 平成29年度～令和5年度

教育

職業訓練

分類



第3期 令和6年度～令和14年度

教育

職業訓練

分類



分類：令和7年度から調査・支援に変更

令和6年度のトピックス

地域社会と被収容者をつなげる

さんじょうがろう
『三畳画廊』

—ART FROMプロジェクト in静岡—

三畳画廊は、公益財団法人静岡県文化財団のアーツカウンシルしずおか文化芸術による地域振興プログラムに応募し、助成支援を受け開催したものです。三畳とは、被収容者が過ごす単独室（一人部屋）の広さを表していて、ロゴにも取り入れています。静岡刑務所内の使用していない単独室を使用し、被収容者の製作した絵画や短歌などの展示会で、矯正展、参観合わせて2,386名の方に参観に来ていただくことができました。

刑務所を正しく理解していただくこと、被収容者の取り組みや想いを受け取っていただくことを意識したこの企画は、マスコミやSNS等を通して多くの方に知っていただくことができました。

来場者アンケートでも、刑務所等に対するイメージがポジティブなイメージに見学前と後で変わったことが明らかになりました。

＊施設イメージのポジティブへの変化率
参観前 22.18%→参観後 59.32%

被収容者の社会復帰の受け入れ先となる地域社会へ向けた、新たな取り組みです。



雇用主と刑務所をつなげる

「雇用主茶話会」

—雇用主との連携を促進 in笠松—

再犯防止のために、就職先を確保して出所することを重視して支援しています。

しかし、内定を得たにもかかわらず勤務開始に至らないケースや、勤務が長続きしないケースが次第に明らかになってきました。そこで、問題解決の糸口を探るべく、雇用主から就労の実態について詳しく話を聞く機会として茶話会を企画し実施しました。

雇用主から直接話を聞くことで出所者のリアルな就労状況がわかったことと合わせて、雇用主同士が出所者のフォローアップについてノウハウを意見交換する場も必要としていることもわかり、今後も継続して開催していく予定です。



茶話会らしく、
笠松名菓もご用意
して和やかに

静岡の取り組み



国実施訓練との連携を意識した新たな訓練科目

職業訓練【物流プロフェッショナル科】【パソコンスキルマスター科】

資格を取るためだけの職業訓練ではなく、就職先で活躍できる人材を育てる職業訓練として、社会の需要等も鑑み、第3期事業では新たな訓練を2科目創設しました。

新たに創設した2科目は、官民の職業訓練を連携させることを意識し、被収容者がステップアップできる仕組みづくりを行っています。例えば、『物流プロフェッショナル科』は、フォークリフト運転科と連携させることで、より現場で必要とされる人材育成を、『パソコンスキルマスター科』は、ビジネススキル科の次のステップアップとして、機能を正しく組み合わせる等、効率的に作業をすることができるようにするための訓練内容となっています。

また、第2期事業から継続実施している社会人基礎力科は、職種や労働需要に左右されることのないポータブルスキルとして幅広く被収容者に受講を呼び掛けています。



物流プロフェッショナル科の講義風景



日常業務から広がるさまざまな発展的取り組み

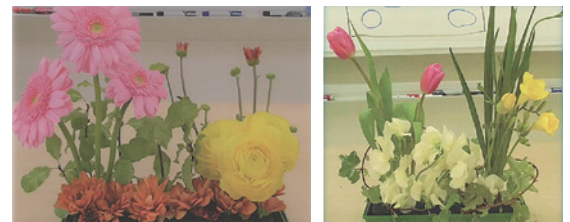
■指導者研修会・共有会

指導担当の職員を対象とした研究授業を実施しました。喜連川社会復帰促進センター、笠松刑務所から指導担当者が集まり、指導の見学～その後のフィードバック、今後の展開について意見交換を行いました。意見交換会の中で話が挙がった教育分科会を別途実施するなど、指導力向上を図る取り組みを継続的に実施しています。

■高齢者や障がい者向けプログラムの充実化

静岡刑務所では、高齢者や障がい者向けプログラムを実施してきましたが、令和6年度より処遇上の配慮を

要する対象者も含め実施可能な、ものづくりプログラムやフラワーセラピープログラムを実施しました。フラワーセラピープログラムにおいては、昼夜居室処遇の被収容者も選定する等、施設と連携し、プログラムの対象者の選定を行い、施設からも評価を得ています。



フラワーセラピープログラムでの作品



JOB SONIC とは

小学館集英社プロダクションが企画・運営している就労支援プロジェクトです。平成29年からスタートし、企業説明会や就労に必要なワークショップなど様々な就労イベントを行っています。

■就労支援ケース会議・ジョブソニック

就労支援ケース会議：年間7回実施

ケース会議では、就労支援対象者の情報共有の他、担当者が集まり今後の方針についてすり合わせを行っています。なお、所内担当者だけでなく、ハローワーク静岡の就労支援ナビゲーターにも参加いただき、役割分担を行う等、支援困難者への対応について連携を密に行うことができました。

■ジョブソニックミニ（通称ミニソニック）

年間4回実施

これまで複数社を招致して開催していたイベントを1社ごとのイベントに変更しました。併せて個別面談の枠を設け、採用面接ではなく、気軽に個別で企業担当者に相談できる機会を設けています。



笠松の取り組み



就労との連携を意識した新たな訓練科目「介護エステケア科」

職業訓練では、社会復帰後に就労できる人材の育成を目指し実施しています。第3期事業では、高齢者に特化した美容サービスのできる人材育成を目指し、『介護エステケア科』を新設しました。高齢者の特性や介護に関する知識も併せて学ぶことで、介護業界への就労へとつなげます。そのほか、協力雇用主であるホテルメンテナンス企業が講師の『客室清掃実務科』では、教室内にビジネスホテルのツインルームを再現し、より実践的な訓練を行っています。「就労後のイメージが持ちやすい」との声が多く聞かれ、就労内定へと繋がっています。また、あらゆる職業選択をできるよう経済産業省が提唱する「社会人基礎力」を養う訓練も実施しています。

年度末には、科目の改善や改訂を目的とした「職業訓練検討会」を行い、効果的な職業訓練を展開しています。



地元TVに取材、放送されました



被收容者向け告知ポスター



女子施設ならではの取り組み JOB SONICから生まれた就労イベント「シゴレプ」

就労能力はあるものの、就職や就労支援へのハードルを高く感じ、一歩が踏み出せない人たちへ、参加してみたいイベント「シゴレプ」(お仕事レセプションの略)を企画して実施しました。働くうえで必要なことを楽しく学べる場として、食生活や睡眠、メイク、強み探し等の女性向けのラインナップを用意し、就労への一歩を踏み出すきっかけの場を提供しています。



美姿勢
エクササイズの
ブース



真剣に取り組む
参加者たち



カラフルな装飾で
イベント感を演出



ShoPro教育プログラム ～受講者の声を紹介します～ (笠松)

アディクション コントロールプログラム



窃盗防止 教育

「プログラムに参加し、窃盗症は一人では決して治していくことができないと改めて感じました。窃盗症を理解してくれている人、知識のある人の助言を大切に、自分に合った方法を見つけていくことが今の自分に必要だと思います。すぐに諦めず、色々な方法を探していくことが回復への道だとわかりました。」

補習教科



基礎学力 教育

「分からないことは人の目を気にしないで聞くことで、昨日まで分からなかった事が理解できるようになった時は、少し自分に自信もつくことができ、今となっては先生に出逢えたこと、そして一緒に同じ時間を過ごしてきた人等と学びあう事でともに成長できたと思います。」

脳トレーニング プログラム



認知症 予防

「色々なことを教えてもらい、すごく楽しかった。指が曲がって字を書くことが少なくなっていたが、書くことで頭をいきいきさせられるとことで頑張った。本当に参加できて良かったです。」

わくわく仕事ワーク



出所後の 就労を考える ワーク

「ワークを通して今の自分に当てはめて考えることで、気づかなかった自分の強みや目指す仕事を可視化することができた、目指す仕事のために必要な準備や取り組むべきことをイメージすることができました。」

現場職員のレポート

静岡

現場から見える支援のカたち —社会福祉士の視点で考える—

刑事施設で働き、もうすぐ2年が経ちます。前職では8年弱、被害者支援の現場に携わっていましたが、どちらの支援にも共通しているのは、「人がもう一度人生を立て直そうとする力に寄り添うこと」だと思います。

支援の中で私が感じているのは、「初めから悪い人なんていない」ということ。ただ、生きる中で孤独や環境の影響を受け、気づかないうちに道を外れてしまった…それでも、自分の人生をもう

一度立て直そうとする姿には、確かな力強さを感じます。誰かに受け入れられ、話を聴いてもらえることで、人は少しずつ変わっていける。その一歩を支えるのが、私の役割だと思っています。

社会に戻ることは、決して簡単ではありません。人は一人では生きていけないからこそ、誰かの支えが必要です。もし、手を差し伸べてくれる存在と出会えたなら、人はきっと変わる。その瞬間に立ち会いたくて、支援を続けています。

笠松

現場で見えてきた“支援”の意味 —教育業務2年目の気づき—

入社するまで刑務所での仕事内容を想像できなかった私が、刑務所で仕事を始めてあっという間に1年が経過しました。この1年は私にとってすべてが新しく、知らないことばかりで戸惑うことも多くありましたが、自分なりにやりがいや目標を見つけ、日々奮闘しています。

私が教育の業務を行っていて特に感じることは、学ぶ機会が不足していた人が多いということです。一般常識といわれる内容だけでなく、小学

校低学年で教わる内容も、学ぶ機会がなかったために身につけておらず、そのことで社会に適応できなかったり、自分の中で恥ずかしさやコンプレックスとなり自分に自信を持てず、結果として犯罪に走ってしまう人もいます。出所してから、自分で何かを学んだり新しいことを始めるのには、勇気がいります。刑務所の中だからこそ、学びの機会を作り、学ぶことへの抵抗を少しでも減らす手助けをしたいと考えています。



つながる・学ぶ・深まる！ 体験的スキルアップ研修を開催しました

日ごろ離れて業務を行っている運営5施設の指導者・指導候補者が集まり、「被収容者の主体性を引き出すグループワーク」というテーマで研修を行いました。指導を担当して感じる疑問や課題を共有し、グループワークの参加者として「自分について語ること」を体験する勉強会です。体験を通じて、内面を語ることの緊張感や抵抗感を実感でき、指導する際の心構えや円滑なグループワークを運営するための場づくりについて理解を深めることができました。指導者同士がつなが

り、学びあって得た知識とスキルを活用し、被収容者の主体性をさらに引き出す指導を実践していきます。



編集後記



被収容者がいづれ戻る社会とのつながりを作り、出所後の未来をつなげていくために、ShoPro 静岡はアートを通じて地域社会へアプローチを試み、ShoPro 笠松は雇用主へのアプローチで就労支援の課題の糸口探しを試みました。今後も被収容者の特性や施設のニーズに合わせた企画を提案し、運営していきます。